

秋の気配

昼間の蝉の声に代わって、夜の虫の鳴き声が聞けるようになると、あんなに暑かった夏が、少し翳りを見せ始めた気がします。季節は静かに、でも確実に前へ進んでいっています。

皆さんの中にはまだ誕生日を迎えていなくて15歳の人もいるでしょうが、いずれみんな16歳になるでしょう。寝ていても起きていても、さぼっていても頑張っている。時間だけは文句なく万人に平等に過ぎていきます。

あなたは今日1日をどう使いましたか？

高校時代の親友Kから先日、連絡があった。彼は昔から剣道が出来てギターもうまく、人当たりがよい。周囲に優しく生徒会長も務めた人物で人望も厚かった。私などとは大違い。今でも仕事の合間に好きなギターを弾き時々LIVEなどしている。仕事をこなし、家族を愛し、ギターを愛し、多くの人に愛され…充実した時間を過ごしているようだ。そんな彼を見ていると人の生き様って人それぞれなのだと思う。同じ高校へ通い同じ時間を過ごしていたのに。きっと彼には彼の悩みがあったりするのだろうが、問題は彼がどのような時間を過ごしてきたか、そのことが充実した彼の「今」を支えているのだ。時間の長さではなく、どういう時間を過ごしたのかだと。

自戒の念をこめて問う。「あなたは今日1日をどう使いましたか？」

北高の先生で今泉という先生がいる。今泉先生は今、所属は伊丹北高校だが派遣という形で海外ボランティアをしている。彼は野球が大好きでJICA(青年海外協力隊)にエントリー、見事難関をパスして隊員となり、ブラジルのサンパウロに派遣されているのだ。今は現地の子供達に野球を教えている。この行動力には頭が下がるばかり。100の立派なことを言う人より、1の行動を起こせる人の方が信頼できる、と私は思う。現状に不平不満を言うばかりよりも、現状を何とかしようとして失敗する人にむしろ魅力を感じる。

この先生の生き方もまたひとつの生き方。正解なんてない。でも少なくとも自分の時間を目いっぱい大切にしていると思う。

時間というのは高校を卒業した後も生きていく限りは、当たり前前に流れて行く。その人の思いがどうであれ。のんびりしていても焦っていても何もしなくても。そして流れていった時間は戻っては来ない。時にはのんびり時間を過ごすことも必要だ。しかしこの当たり前前に流れていく「今日」という1日を大切にしたいと思う。誰のものでもなく「明日」(未来)のあなたの時間に続いている「今日」を。

秋の夜長、たまには「今日」を振り返り、やがて「今日」になる「明日」を大切に迎えてみてはどうでしょうか。



サンパウロの今泉先生に「18期生に視野を広く世界に向けてもらえるような夢のある話をしてやって下さい」と学年通信への寄稿をお願いしたところ、快く引き受けて下さり、早速送って下さいました。何回かに分けて掲載させてもらうので楽しみにして下さい！

広い世界へ①

ブラジルから 18 期生へのメッセージ

今泉友秀

いつも仲良しの岡本先生から依頼され、18期生の人へのメッセージを送ります。まず、自己紹介から。今泉友秀と申します。私は、昨年度北高からブラジルのサンパウロに行き、野球を教えます。来年4月には北高へ戻ります。だから、皆さんが2年次になった時に出会うことになりますね。



さて、なぜ私はブラジルにいるのか？
そこから話すのがいいですね。日本とブラジルは飛行機で24時間(乗り換えをいれると30時間)かかります。つまり、反対側に位置しています。遠いですね。時差も12時間違います。みんながお昼ご飯を食べている時に、深夜なので寝ています。日本とブラジル間のLINEは大変ですよ。こんばんは！おはよう！になります。どっちがどっちに合わせるか？いまだに悩みます。

○きっかけは北高

伊丹北高校では、1年次から自分の道を探していくことを大切にしています。しかし、簡単に決まるものではありません。また、決まっても永久ではなく、もちろん変わります。大切なのは、考えることです。そこから、自分が見えてきます。自分が見えてくれば、生きる道がなんとなく見えてきます。そうやって今、みんなが考えている事でしょう。その姿を見ていて、私も、教師以外に、もっと私を必要としている場所はないか、自分しかできなくて役に立てることはないかと考えるようになりました。つまり、君たちのお父さんくらいの歳の私ですが、何も考えなくていいのではなく、北高生に刺激を受け、考えるようになり、将来の夢がまた新しくできたわけです。2分間スピーチも書き換ええないといけません。よく16期生に、「おれはまだまだあきらめてないよ。やるよ」と言っていたものです。いくつになろうとも、「可能性は無限大です！遅いということはない！なんでもできる！無理という限度を決めるのは誰でもなくて自分！」ということは何もないですね。こうやって北高に来たことが大きなきっかけになりました。

○なぜ、ブラジルで野球？

やはり、何をすることも好きでないことはできません。自分の分析です。長所も短所もひっくるめて。そして、キーワードが出てきました。「野球」「海外」「世界史」「外国語」「障害児」など、結局この中から、「海外で野球を教えられないか？」というテーマが出てきました。そのためにはどうしたらいいか？調べて、青年海外協力隊で有名な JICA に行きつきました。どうやって行きついたか？自分で調べるのはもちろんですが、いろいろな人と話すことです。「こんな興味ある」「こんなしたいんだけど」などと言っていると、誰かが気にしてくれて情報も入ってきます。簡単ですよ、言うだけです。でも、それが難しいですね。ちょっとでも興味があったら、今日からみんなに言いましょ！どんな縁が繋がって、チャンスがやってくるかわかりません。もし、JICA へ興味がある人は、来年私がサポートします。

